



前回に引き続き、**定着確認シート**の問題を使って、正答率が低かった「読む」領域の問題の分析、授業の改善の方法について、解説していきたいと思います。

問題番号 5(1) (2) 「保健だよりと話し合いを読み取る」 (短答・記述)

出題のねらい

- (1) 発言者の意図をとらえたうえで、正しい言語表現に直すことができる。
 - (2) 話し合いのルールを踏まえて、発言の問題点をとらえ、指摘する言葉を適切に表現できる。
- 5・6年C(1)ウ

正答

(2) 司会者が自分の意見や考えを述べているところ。

(3) 確かに連絡するには、便利だと思います。

しかし、小学生がたびたび急用で友達や家族に連絡をすることはないと思います。それに、その日の予定は、朝のうちに家で確認してくる人のほうが多いのではないのでしょうか。

平成二十六年 第四回定着確認シート【第六学年】

次は、六年生の坂田さんの学級で、小学生が携帯電話を持ってよいかというテーマで討論会をしたときの様子の一部です。これを読んで、後の問いに答えましょう。

話し合いの文

※ 省略しますので、実際の問題を見てください。

(2) 司会②の発言には、討論会の司会者としてよくないところがあります。それはどんなところですか。

(3) 細川さんの③の発言を、次の〈条件〉にしたがってわかりやすい発言に書き直しましょう。

細川 私は、携帯電話を持ってよいという意見に反論します。③確かに、連絡をするには便利だと思うけど、小学生がたびたび急用で友達や家族に連絡をすることはないと思うし、その日の予定は、朝のうちに家で確認してくる人が多いんじゃないかな。

〈条件〉○ 全体を三つの文に分けること。

○ 二つ目、三つ目の文は「しかし・それに・それでも・だから」の中から二つのつなぎ言葉を使って書き始めること。

○ 「です・ます」を使って、ていねいな言い方で書くこと



出題のねらいが「話すこと・聞くこと」でなく、なぜ「読むこと」になるのかな？

授業では、とても活発に討論を行うことができたのに、どうして正答率が低いのかな？





「国語科の学習内容は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語事項が深く関連し合っている。」「国語科における言語活動の充実は、目的かつ手段でもある。」という教科の特質をしっかりと理解して、単元構成を考えることが大切です。

自分の考えをまとめて、討論しよう

「豊かな言葉の使い手になるためには」 1 4 時間扱い（5 年光村図書）

身に付けさせたい力を明確にせず、指導書のと通りの単元計画で授業を行うと・・・

単元の目標

- ◎ ①話題を決めて、②収集した知識や情報を関連づけ、③互いの立場や意図をはっきりさせながら、④計画的に話し合うことができる。（話すこと・聞くこと）
- 自分の⑤課題について調べ、⑥意見を記述した文章を書くことができる。（書くこと）

言語活動

- ① 課題について調べる。 ② 意見を記述した文章を書く。
- ③ 自分の考えをまとめる。 ④ 討論をする。

6つの指導内容、4つの言語活動 → どれも大切 → 焦点化されず学習が進む

→ 教師、児童ともに、何を学習しているか分からなくなる。

国語科において、指導事項を定着させることが難しい要因の一つ

授業をこう変えてみよう！（指導事項の焦点化、単元を貫く言語活動）

まず

学習指導要領の指導事項から、身に付けたい力を確認する。

→ 「読むこと」と「話すこと・聞くこと」の関連を明確にし、焦点化することが重要

第5学年及び6学年

「C 読むこと」

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりすること。

「A 話すこと・聞くこと」

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

身に付けたい力

「話し手と自分の意見と比べ、考えを明確にする力」



次に

単元を貫く言語活動を設定する。

➔ この単元の討論は、あくまでも手段であり、目的ではない。

単元を貫く言語活動として「討論をする」を設定する。

- 討論を通して、自分の考えを明確にする。
- 討論を通して、話し手と自分の意見と比べる。

最後に

設定した「討論をする」という単元を貫いて位置付ける。
児童の「伝えたい」意欲を高める工夫を行う。

- 討論のモデルケース（録音資料等）を聞く。
- 児童が関心をもつことができる、身近な話題を選定する。
- 討論をするために必要な力を洗い出す。

※ 単元の第2次に教科書で習得 → 第3次の討論会で活用

- ・ 課題を調べる力
- ・ 意見を記述した文章を書く力
- ・ 自分の考えをまとめる力
- ・ 意見の述べ方を学習する力
- ・ 司会として進める力
- ・ 立場を明確にして話す力
- ・ 疑問や反論を伝える力
- ・ 話題をつなげて話す力

- 司会はどの児童にも経験させる。
- 自己評価や相互評価を取り入れる。

活動のねらいは「話し手と自分の意見と比べ、考えを明確にする力」であることを、常に意識して「めあて」と「まとめ」を設定する。

◇ 児童の実態に応じて、単元の中で補強
◇ 系統性を考慮

「討論会」は 6年生でも学習



相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう
「学級討論会をしよう」 7時間扱い 6年 光村図書
※ 5年生の学習での成果と課題を踏まえた、単元計画を作成



一つの単元で、すべてを教えようと思わずに、指導事項を焦点化し、繰り返し螺旋的に指導することが、とても大切です。
そのうえで、適切な言語活動を設定し授業を行うことが、学習内容の定着につながります。